ABS アバランチエアバッグシステム

取り扱い説明書

2014.10.28 改定

■雪崩での安全確保の１０の原則

雪崩専門家によると、最も優先度が高いのは雪崩の中に埋まることを回避することです。

ABS ® Twinbag System の利点は以下の１０種類に示されます。

ABS のセルフレスキューシステムが示したパフォーマンスは、ABS が起動された 262 の事例中、97%の人が生存したという実績の通り、大変印象深いものでした※。

※source:SLF, known and documented accidents with ABS avalanche airbags, August 2010.

PRINCIPLE 01
HIGHEST SURVIVAL RATE

PRINCIPLE 02
GERMAN ENGINEERING

PRINCIPLE 03
DOUBLE SAFETY

PRINCIPLE 04
PNEUMATIC PULL

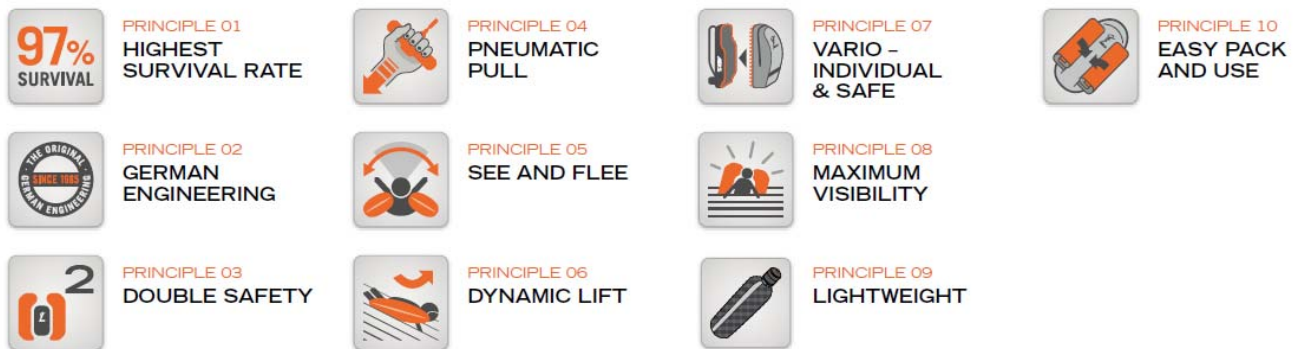
PRINCIPLE 05
SEE AND FLEE

PRINCIPLE 06
DYNAMIC LIFT

PRINCIPLE 07
VARIO – INDIVIDUAL & SAFE

PRINCIPLE 08
MAXIMUM VISIBILITY

PRINCIPLE 09
LIGHTWEIGHT

PRINCIPLE 10
EASY PACK AND USE

１．ようこそ

ABS アバランチエアバッグシステムのご購入ありがとうございます。

本商品をご使用前に必ず本説明書をお読みください。［注意］と記載のある部分は特に注意を払って下さい。

早期解決のために説明書を分かりやすい場所に設置することをおすすめします。

本説明書は ABS エアバッグの機能や使用法について記載しています。

ABS エアバッグの対象ユーザーは、全てのオフピステでのスノースポーツユーザーです。

ABS エアバッグは雪崩などの不確かな環境下で起動することにより、雪崩への完全埋没を回避する緊急用の装備です。雪崩の発生を防ぐことはできません。

また、雪崩などにより完全に埋没しない時でも死に到る要素は残っています。

全ての雪崩は、装備に関係無く生命を脅かす絶対的脅威です。

それゆえ、ABS エアバッグはより大きなリスクを取ることを奨励するものではありません。

ABS エアバッグの動作にはアクティベーションユニット（ガスカートリッジ＋ハンドル）が必要です。個々の ABS システムは発送前にテストされています。

雪崩という非常事態で ABS システムを利用するためには事前訓練が必要です。そのため、ABS ではエアバッグの始動について個々で練習することを強く推奨します。

最初にアクティベーションハンドルを引いてエアバッグを起動する前に本説明書をお読みください。

・カートリッジを取り付けずにアクティベーションハンドルを付けてはいけません

（カートリッジを装着しない状態でアクティベーションハンドルを起動すると装置が故障します）

・起動後のハンドルとカートリッジは常に新たなものに交換してください

・ハンドルとカートリッジの両方を替えてはじめて ABS システムの準備が整います

・エアバッグを使用しない際は必ずアクティベーションハンドルを外して下さい

ABS エアバッグは、常にビーコン、ショベル、ブローブとあわせて使用して下さい。

ABS システムはドイツ製です。

2．各部品と部分の紹介

1）穿孔器	6）プラスチックフラップ	11）レッグストラップ
2）エアバッグ	7）黄銅製結合部	12）カートリッジ
3）エアバッグ隔室	8）ハンドルプレート	13）カートリッジキャップ
4）吸引、開放ユニット	9）ショルダーストラップ	14）アクティベーションハンドル
5）開放弁	10）ウェストベルト	15）ピン

３．警告と適切な使用法について

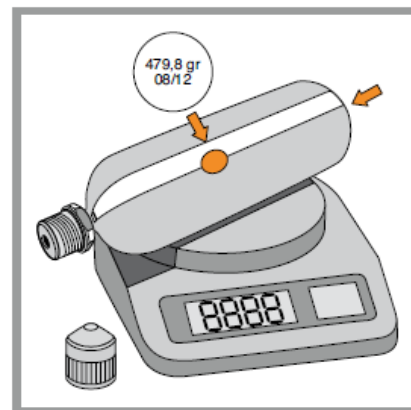
・ ABS エアバッグは雪崩を防ぐことは出来ません
・ 全ての雪崩は、ABS エアバッグを使用している、いないに関わらず、生命に対する危険があります
・ ABS エアバッグはリスクを取る意欲を増大させるものではありません
・ ABS エアバッグの機能およびシステムは単に雪崩被害者の完全な埋没を回避することに限られています。しかしながら、部分的もしくは完全に埋没を回避できるかについては、状況・環境により変化する可能性があります。
・ ABS エアバッグは緊急時に適切に反応することができるよう練習することが重要です。あなたの安全の為にシーズン中に１度はアクティベーションの実施を推奨します。
・ ABS エアバッグは毎回の使用前に慎重に取り扱い、適切な確認作業を実施することが必要です。
・ アクティベーションハンドルとカートリッジはご自身での再充填はできません。ご使用後はご購入店舗で有償の交換プログラムをご使用下さい。
・ ガスが充填されているカートリッジの装着完了後に、アクティベーションハンドルを装着して下さい。未使用のカートリッジを装着していない場合、もしくはガスの入っていない使用済みカートリッジ装着時の起動はシステムへの損傷や機能停止につながります。その際は有償での検査及び修理が必要です。（この場合は保証対象外となります。検査、修理を実施しない場合の正常起動は保証できません）
・ もしアクティベーションハンドルに明確に赤色の線が見えている場合は火薬が入っていないため起動しません。
・ また、損傷した（大きな外傷や亀裂など）アクティベーションハンドルは、起動時に破裂する可能性があるため使用してはいけません。
・ バックパックのショルダーストラップに位置する黄銅製の接合部以外の場所で、アクティベーションのピンを抜いてはいけません。怪我をする危険があります。
・ アクティベーションハンドルのピンを汚れから守ることは重要です。ピンに汚れが付着した場合はご購入店舗で有償の交換のプログラムをご使用下さい。
・ アクティベーションハンドルの使用期限に注意して下さい。**（有効期限は 3 年です）**
・ 本製品は ABS 製のカートリッジ及びアクティベーションハンドル、部品、スペアのみ使用が可能です。
・ ご本人でシステムの変更や、修理を実施してはいけません。認定された ABS サービスセンターでのみシステムの修理等は可能です。認定されていない場所での作業はシステムの動作不能と同様、保証の対象外となります。
・ カートリッジは背面に簡単に装着できます。もし強い抵抗やカートリッジを回転させることが難しい場合は、ご購入の店舗へご相談下さい。
・ 充填されているカートリッジは、熱にさらさないで下さい（ストーブ、直射日光等）。カートリッジに衝撃を与えたり圧力をかけたりしてはいけません。爆発の危険があります。最高温度は５０度です。
・ ABS エアバッグに荷物を入れる時は、エアバッグが開く際に損傷を与えないようにして下さい。特にアイスピックやポール、スキー等の装備は注意が必要です。
・ 使用後のエアバッグは説明書を参照して折り畳んで下さい。誤った収納はエアバッグの開放を妨げ、機能不全やバックパックの損傷につながる可能性があります。
・ ABS エアバッグは子供の手の届かないところに保管して下さい。
・ アクティベーションの練習時は他人に危害が加わらないように気をつけて下さい。
・ 偶発的なアクティベーションによる他人の怪我など、予期しない不慮のアクティベーションを避けるために、リフト、ゴンドラ、ヘリコプター、バス、電車、自動車の乗車時にハンドルを外しておくことを推奨します。

４． 初期確認

４． １　初期確認と練習

ABS エアバッグはユーザーによる適切な取り扱いが重要です。
取り扱いについては、下記のステップを熟読し確実に行って下さい。

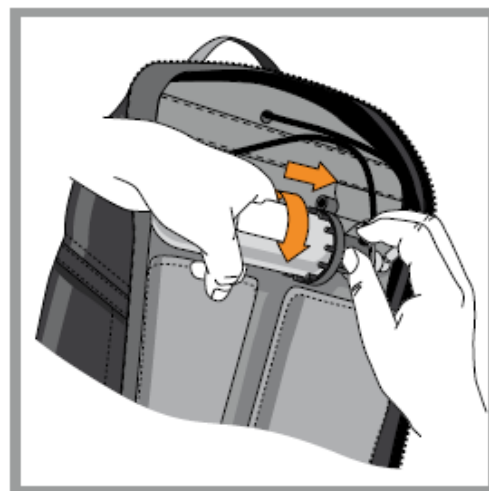
Step 1　カートリッジ（ガスボンベ）重量の確認

使用前にキャップを外した状態でカートリッジ重量を確認します。
重量はカートリッジの側面に記載されています。許容範囲はプラスマイナス 5g です。許容範囲外の重さがあるカートリッジはご購入の店舗で無償交換を行います。
完全な状態の充填済みカートリッジは ABS エアバッグの機能を発揮するための前提条件になります。

Step 2　カートリッジ（ガスボンベ）の装着

［注意］アクティベーションハンドルは、ガスが充填されているカートリッジを取り付けた状態でのみ装着して下さい。カートリッジが未装着、あるいはガスが入っていないカートリッジの装着時に起動した場合、ABS システムが損傷し、検査及び修理が必須となります。（補償対象外で有償修理となります）
検査、修理を実施しない場合は装置の正常起動は保証できません。

カートリッジ装着前に穿孔器がきれいな状態であることを確認します。ピンは必ず中心に見えていなくてはいけません。
充填されたカートリッジを止まるまで回転装着し、回転がきつくなったことを確認したら、それ以上回す必要はありません。

ガス漏れや機能不全を避けるためにエアバッグ使用前には、カートリッジが正しく装着されていることを確認してください。

角度によってカートリッジはうまく回りません。抵抗を感じ回すのが困難な際には、そのカートリッジは使用してはいけません。ご購入の店舗にご相談下さい。

Step 3　ストラップとベルトの装着

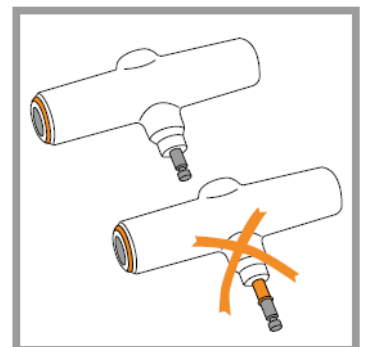
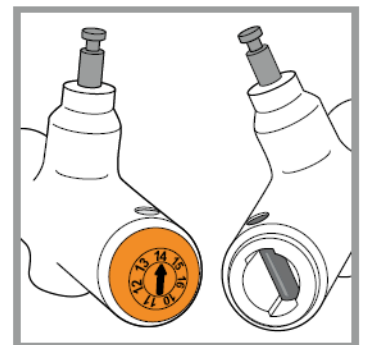
バックパックを背負い、身体にフィットするようにショルダーストラップを調整します。常にウェストベルト、チェスト、レッグストラップは身体に合うように締めて下さい。緊急時にバックパックを確実に装着できていることが、ABS エアバッグの使用には必要不可欠です。
パッキング重量の大部分は肩よりも、臀部の上にかかるようにします。
雪崩発生時に ABS エアバッグが外れないように必ずレッグストラップを股の下に通してください。

バックパックはエクストリームスポーツで使用されるためのヨーロッパ基準(TUV guidelines)に準拠しています。
アクティベーションハンドルを装着する前にバックパックをつけてみましょう。
これは不必要、または不慮のアクティベーションを避ける為です。

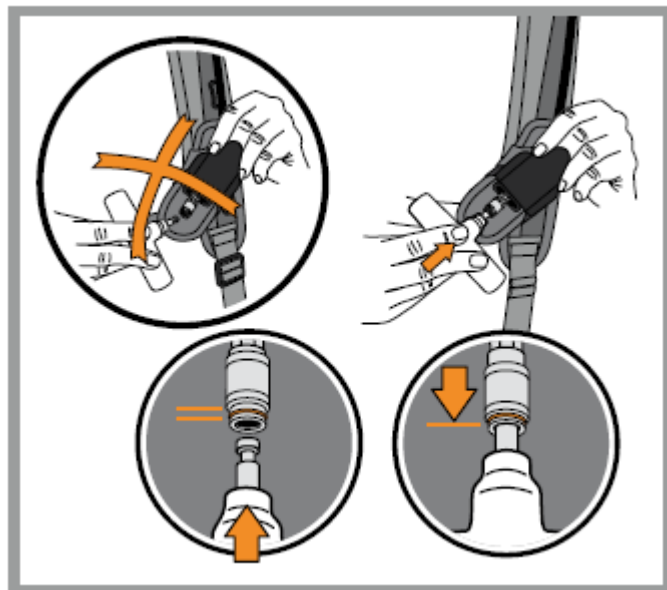
Step 4 アクティベーションハンドルの確認

アクティベーションハンドルには 0.19g の爆薬が入った圧縮カプセルが充填されています。これは一度しか使用することは出来ません。装着したアクティベーションハンドルを引くことにより、圧縮カプセルが爆発します。発生したガス圧力がカートリッジに穴を開け、エアバッグを展開します。

圧縮カプセルは限られた短い期間だけ機能します。
そのため、3 年を過ぎたカートリッジの使用はおすすめしていません。側面の赤いキャップには、交換期間を示すマークがついています。交換時期は常にその年度の 5 月になります。未使用の期限切れのハンドルは有償で交換が可能です。

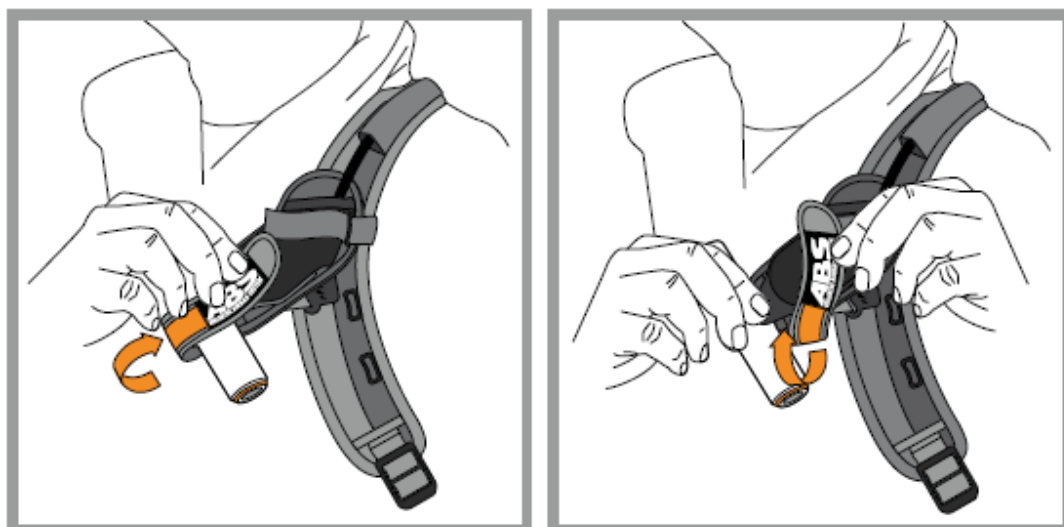
ピンは、しっかり固定されている必要があり、ピンの根本に赤い線が見えていてはいけません。ピンに赤い線が見えている場合、ハンドルは使用済みのためエアバッグ起動させることが出来ません。
起動した際に破裂のおそれがあるため、損傷を受けたハンドルを使用してはいけません。
黄銅結合部以外（取り外した状態など）でピンを引こうとしてはいけません！　怪我の危険があります！
ハンドルを汚れから保護してください。子供の手の届かないところに保管して下さい。

Step 5　アクティベーションハンドルの装着

アクティベーションハンドルの装着のために、ピンと黄銅製接合部をあわせ、ハンドルを押し込みます。その際、プラスチック製のフラップをもう一方の手でめくります。結合部は自動的に戻ります。

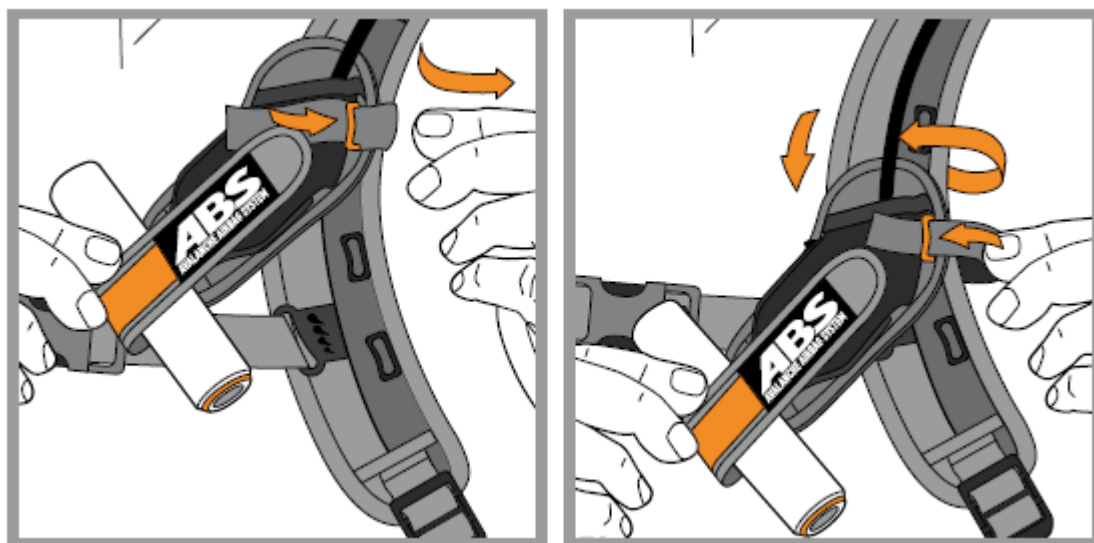
ハンドルが適切に装着された時のみ、使用することができます。ハンドルが適切に装着できず、接合部の状況により、固まってしまった場合は正しく起動することが出来ません。

［注意］アクティベーションハンドルは、ガスが充填されているカートリッジを取り付けた状態でのみ装着して下さい。カートリッジが未装着、あるいはガスが入っていないカートリッジの装着時に起動した場合、ABS システムが損傷し、検査及び修理が必須となります。（補償対象外で有償修理となります）
検査、修理を実施しない場合は装置の正常起動は保証できません。

各要点に沿った取り扱いをすることで、ABS システムを利用することができますが、アクティベーションの練習をする前に本取扱説明書を読み終えることを推奨します。

Step 6 ベルクロを閉じる

ベロクロを閉じることは不必要なアクティベーションを避けるための安全確保になります。オフピステエリアや雪崩の可能性があるエリアなどに入る前に、必ず赤いベロクロを緩めて、起動を妨げないようにアクティベーションハンドルの後ろに取り付けて下さい。きつく閉められたベロクロでは通常起動することが出来ません。

不必要な起動を完全に防ぐためには、アクティベーションハンドルを外すことをお勧めします。特にあなたや周囲の人を危険にするような環境（リフト、ゴンドラ、ヘリコプター、バス、電車、自動車などへの乗車中）ではハンドルを外しておくことを推奨します。

Step 7 アクティベーションハンドルの高さ調整

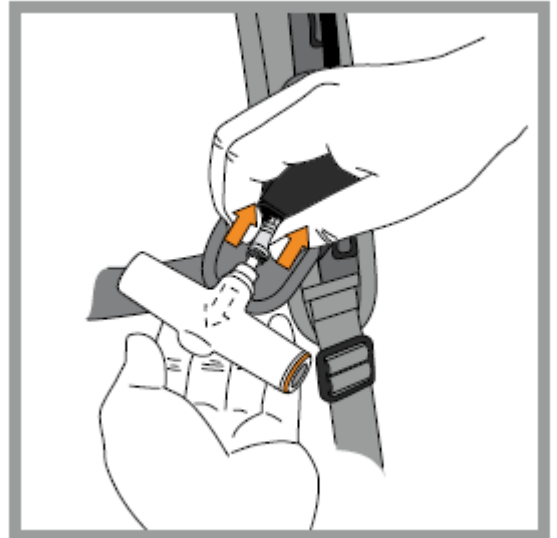
バックパックを装備したときにアクティベーションハンドルが使い易い場所にあるか確認してください。使い難い場所の場合はハンドルプレートを正しい高さに調整します。アクティベーションハンドルの適切な取り付け位置は胸部と肩の間です。

適切な高さに調整するために、ハンドルプレートをプラスチックの鳩目に取り付け、ベロクロを閉じます。

アクティベーションハンドルが衣服によって妨げられずに簡単にアクセスできることを確認して下さい。

左利きの場合は、右側にアクティベーションハンドルの装着を行うことができます。
その際は別売のハンドルプレートが必要になります。

Step 8 アクティベーションハンドルの取り外し

ハンドルを取り外すためにベロクロを取り外し、結合部を手前側に引き込みます。
ハンドルを引かなくとも、ハンドルが飛び出します。
ハンドルが飛び出さない場合でも、充填されたハンドルを引かないで下さい。ABS エアバッグが起動してしまいます。

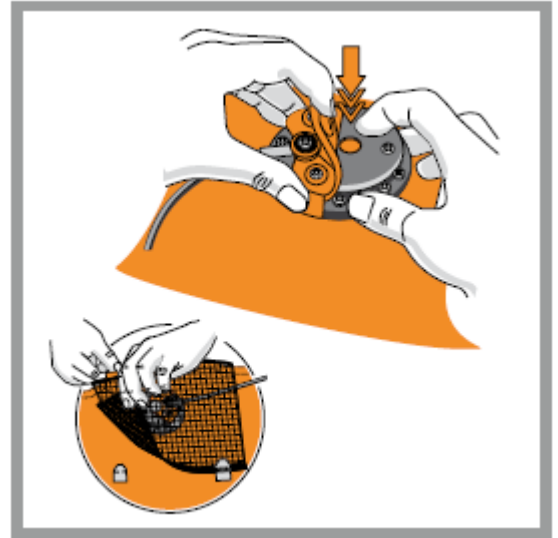
ABS エアバッグを使用しない際はハンドルを取り外し、ヒップストラップ付近にあるポケットに保管して下さい。

Step 9 アクティベーションの訓練

ABS システムを 100%確実にご利用頂くため、お客様自身でのトレーニングの一環として、起動を練習することを強く推奨しています。それにより機能の原理を現実的に実感できることになります。

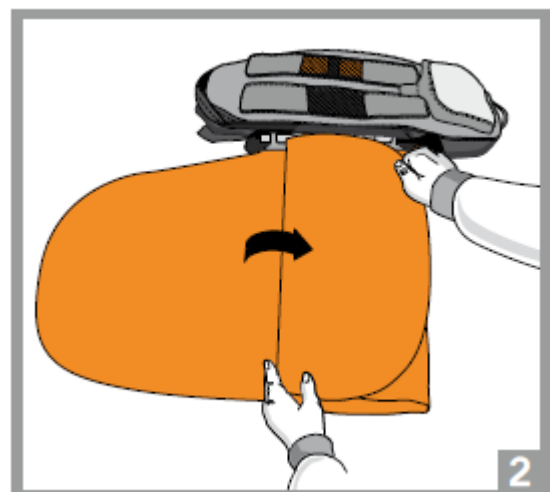
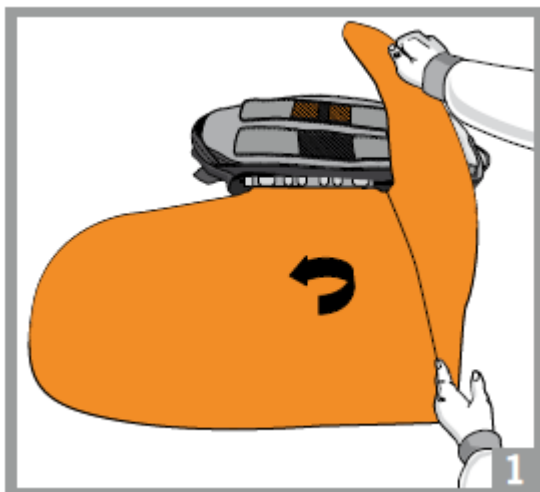
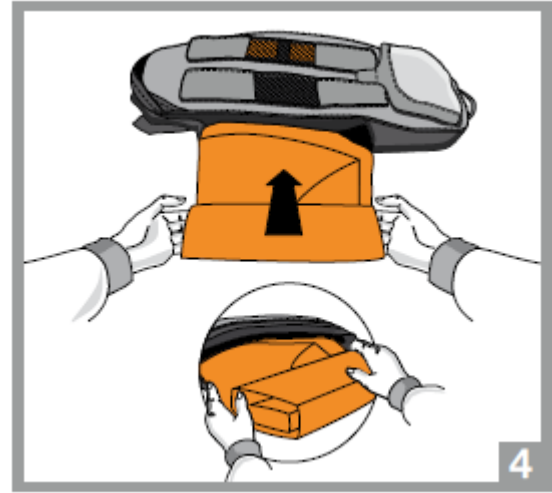
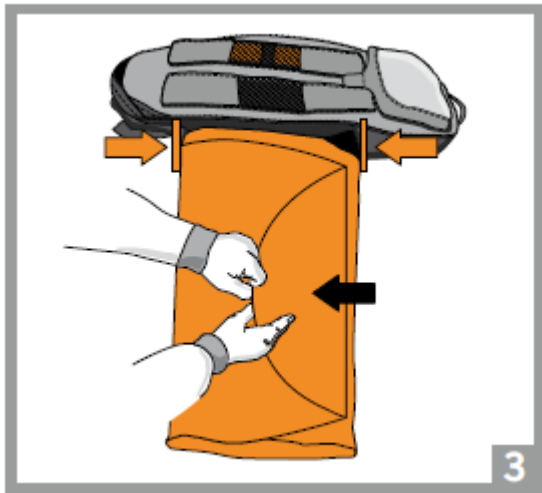
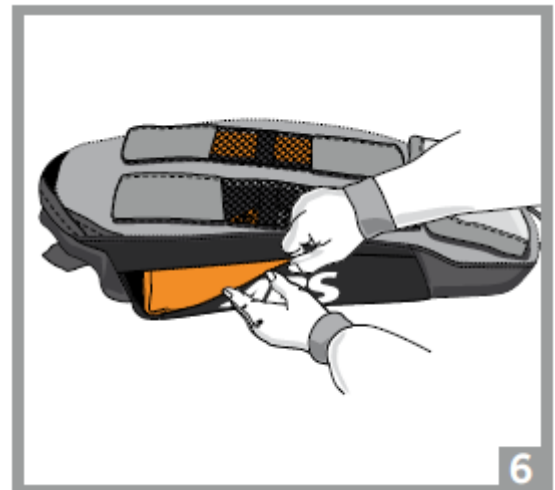
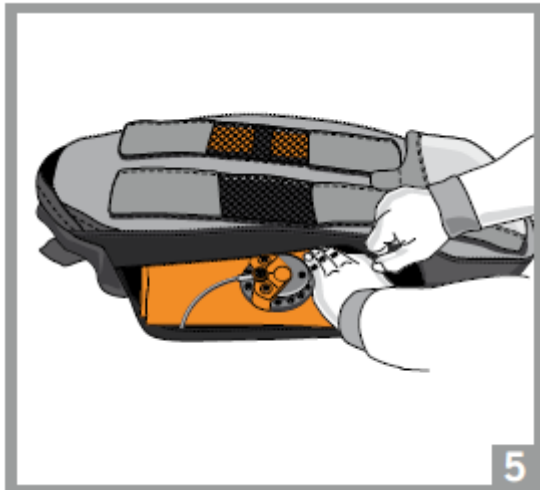
アクティベーションの訓練は周囲への危害の影響を避けるために、人や物体との距離をおおよそ 1 m以上離して実行します。
　強く、素早くハンドルを引きます。アクティベーションにはおおよそ 8kg (17.64lb;80N) の力が必要です。
エアバッグは 2、3 秒程度で完全に膨張します。

［注意］ 膨張後の音は、自動的に圧力を均等化するためのバルブがリリースされたことによるものです。エアバッグの膨張は外気温と高度により、変化します。

Step 10 エアバッグの収縮

最初に吸入管のネットカバーを開けて、バルブを解放します。
赤いカバーをめくり、黒い吸入管の中央部にあるリリースバルブを押して、バルブを解放します。
同時にエアバッグを圧縮して完全に空気が抜けた状態にします。
それからネットカバーを再度閉じます。

Step 11 エアバッグの折り畳み

［注意］間違った畳み方はエアバッグの欠陥につながります。これは機能不全やバックパック損傷につながる可能性があります。

後述の説明を参照しながら、エアバッグを手順通りに折り畳んで下さい。

1. エアバック本体の背面（ショルダーストラップ設置側）を**下側**に向けます。
   吸入管とリリースバルブを地面と接する形でエアバッグを横に広げます。
   エアバッグの滑らかな面を表にします。
2. エアバッグの上部をエアバッグの隔室にあわせて折りたたみます。

3. 次にエアバッグの端を畳みます。エアバッグは隔室のサイズにあうように調整します。
4. 次にエアバッグをバックパック方向へ３回畳みます。折り畳む幅は手のひらの幅が目安です。それにより、エアバッグが開きやすくすることができます。

5. エアバッグを隔室の中に入れ込みます。吸入管とリリースバルブはエアバッグの上にはっきりと見えるようにしなくてはいけません。
6. エアバッグ隔室のベルクロをきつく閉じます。

Step 12　カートリッジおよびアクティベーションハンドルの交換

エアバッグを起動の後は、カートリッジとアクティベーションハンドルを交換する必要があります。

Step1、Step 2、Step 4、Step5 を参照して進めることで、再度 ABS システムを動作可能になります。

４．２　ツアー中およびシステム始動中

Step 1 から Step 6 にあわせて初期確認を行います。

1. カートリッジの確認

2. カートリッジの装着

3. ストラップとベルトの装着

4. アクティベーションハンドルの確認

5. アクティベーションハンドルの装着

6. ベロクロを閉じる

４．３　　ツアー終了時

Step 8 のアクティベーションハンドルの取り外しに従って下さい。カートリッジは装着したまま残しておくことが可能です。

５　雪崩発生時の対応

５．１　アクティベーション

雪崩に気がついたら躊躇なく ABS エアバッグを起動して下さい。ミスを回避するため、一度よりも何度も起動動作を繰り返すことがより大事です。

起動するために強く素早くアクティベーションハンドルを引いて雪崩からの脱出を試みます。エアバッグはスキー中、降下中、エアバッグ上に横になっている状態、既に雪崩によって巻き込まれているという状態に関わらず、自律的に膨張します。膨張したエアバッグは雪崩からの脱出や岩肌への衝突の回避などのスキー操作を妨げません。

５．２　雪崩発生中の対応

エアバッグ起動後はフォールラインにのみ集中して下さい。バックパック左右に設置されたエアバッグという機構は自由な腕の動きを妨げません。雪を除けたり障害物を押しのけたりすることが可能です。自分の体制を安定させて頭部を保護してください。ABS エアバッグは動作や視覚を制限すること無く、頭部を保護することを助けます。
スキービンディングは身体をねじって外すことを試みてください。ストックのストラップに手を通してはいけません。またバインディングについているストラップ（リーシュコード）を使用しないでください。可能であれば、口はずっと閉じていて下さい。
雪崩停止時には出来るだけ上半身と腕を雪の上に出すように努力し、雪崩から身体を解放します。

５．３　雪崩停止後

安全な場所を見つけて下さい。可能であれば、他の被害者救援して下さい。雪崩の危険がもはや去ったという絶対的な確信があるまでエアバッグは収縮せずに、可能であれば次のカートリッジとハンドルを装填してください。その際あなたはまだ雪崩が発生しやすいエリアにいるため、エアバッグは膨らんだままにしておいて下さい。

５．４　統計分析のためのアンケート

ABS 雪崩用エアバッグを使用した際の行動について報告をお願いします。
実際の行動からの発見は将来的なシステム改善にとって非常に重要です。アンケートは直接請求するか、ウェブサイトからダウンロードすることが可能です。
所定のフォームに全て記入し、サインしたものをあなたの国の適切な雪崩調査センター、例えば Federal Institute for Snow and Avalanche Research in Davos (SLF)もしくは ABS サービスセンターに送付下さい。

６．仕組み

ご購入頂いた ABS エアバッグは、長年における雪崩調査の経験、救助、および統計情報がベースとなっています。雪崩被害者（スキーヤー、スノーボーダー）のほとんどが、雪崩が停止した時にまだ生きています。しかしながら、ほとんどの犠牲者は埋まってしまい、身動きをとることが出来ず、また救助者の目にふれることも出来ません。これは死との競争にほかならなく、そしてその始まりは完全に埋没し、気道を遮られることです。

救助を成功させるための主たる障害は、埋没地点が１m以内かそれ以上かどうかです。これらの犠牲者をこのような雪の深さから掘り当てる時間が、生存時間を超えてしまうケースがしばしば発生します。そのため、埋没を出来る限り避けることが絶対的に不可欠です。雪崩発生時にアクティベーションハンドルを引くことで、ABS 雪崩用エアバッグは事故発生前に埋没しにくい物理的前提条件を提供します。
雪崩時の移動中の雪は大きな質量の物体を表面に押し流します。もしこれらの物体が周囲の雪に比べて容積あたりの重量が小さければ物体は地表にとどまります。ABS エアバッグの 170 リットルの容量は、身体を雪崩の雪の上に浮上させることを助けます。
それはエアバッグの重量および形状も貢献しています。大きな地表面は流れる力を浮力に変換し、身体を水平に保ちます。ABS エアバッグは既に数百のスノースポーツ愛好家の埋没を防いでいます。

７．メンテナンス

７．１　セルフチェック

・ ABS 雪崩用エアバッグは、以下の要点を確認することでほぼメンテナンスフリーです。
・ ABS エアバッグを少なくとも１年に１回は起動して下さい。出来れば毎年のシーズンの最初にアクティベーション訓練を行うことを推奨します。アクティベーションは安全な場所で行ってください。
・ 黒い吸入管のリリースバルブとリリースユニットを確認して下さい。赤いボタンを数回押し、ボタンが完全に所定の位置に戻ることを確認してください。
・ バックパックストラップ、バックル、エアバッグの隔室、ベロクロの状態を定期的に確認して下さい。
・ カートリッジを取り付ける穿孔器が汚れていないかどうか確認して下さい。
・ アクティベーションハンドルは容易に結合部に合う必要があります。もしハンドルの取り外しに問題ある場合は、ABS オイルを結合部に添加することができます。ABS オイルのサンプルチューブは商品に含まれており、ABS 社へオーダーすることも可能です。
・ ABS エアバッグの使用前に充填されたカートリッジがしっかり取り付けされていることを確認して下さい。

７．２　雪崩後のチェック

　雪崩での使用後は用具が損傷している可能性があります。損傷は目に見えにくいものです。そのため ABS バックパックの検査を受けることをお勧めしています。
詳しくはご購入の店舗までお問い合わせ下さい。

もしエアバッグをすぐに検査することが出来ない場合、以下の事項をチェックすることを推奨します。

・ エアバッグに穴が空いていないか目視で確認する
・ エアバッグのストラップに裂け目がないか確認する
・ 肩、腰、胸部のストラップに裂け目がないか確認する
・ 全てのバックルを確認する（肩、腰、胸部の調整用バックル）
・ レッグストラップと同様にバックルについても裂け目や変形がないか確認する

７．３　カスタマーサービス

　ご購入から３年で装置全体の検査を受けることを推奨します。カートリッジおよびアクティベーションハンドルを含む ABS 雪崩用エアバッグをより広い範囲で全てのパーツについての検査を行います。
詳しくはご購入店舗へお問い合わせ下さい。

８．構成要素

８．１　エアバッグ

２つのエアバッグは膨張時にはそれぞれ 85 リットル（合計 170 リットル）の容積があります。エアバッグは個別の隔室と吸入管を有しており同時に膨らみます。もしエアバッグの１つが損傷していても、もう一方が膨らみつづけます。内圧はおおそよ 0.1bar です。

８．２　吸入管と開放バルブ

この結合部はエアバッグに直接配置されています。開放バルブのボタンは黒い吸入管の中および開放ユニットの中に位置しています。赤いプラスチックカバーによりスイッチを外部圧力から保護します。

吸入管と開放バルブを覆うネットカバーは雪がエアバッグ内に侵入することを防ぎます。損傷したネット場合はいつでも交換することが可能です。

８．３　穿孔器

カートリッジを取り付ける穿孔器はバックパック上部の仕切られた場所に位置しています。穿孔器はきれいな状態を保ち、他の物質により傷つかない状態であることを必ず確認して下さい。そのため、いつもカバーは閉じた状態にして下さい。取り付けられたカートリッジはいつでも穿孔器から取り外すことができます。ハンドルを引くことによってのみ、カートリッジをアクティベートすることができます。いつもカートリッジを取り付けたままにしておくことを推奨します。

８．４　アクティベーションハンドル

アクティベーションハンドルは火薬を装備しています。ハンドルをショルダーストラップにある結合部に取り付け、アクティベーションハンドルを引くことで中の火薬が爆発します。爆発の圧力はチューブを通じて穿孔器まで伝達します。カートリッジ内にある窒素は穴を開けられた直後に耐圧チューブを通じ、吸入管および開放バルブ内を通って、２つのエアバッグに供給され、膨張します。膨張時間は約２、３秒です！

８．５　カートリッジ

　カートリッジには大気と同様な無害なガスのみが入っています。内圧は 300bar です（カーボンは 340bar)。カートリッジの穿孔は ABS システムの穿孔器によってのみ行います。不正な操作により重症もしくは致死に到る爆発を生じる可能性がありますので、取扱いには十分注意して下さい。

個々のカートリッジは-40 度から+50 度までの温度帯にあわせて設計されています。交換は ABS の正規取扱店でのみ行っています。カートリッジは落下などによる強い衝撃を避けてください。

カートリッジはモデルに応じて以下の規格に準拠しています。
・ヨーロッパのスティールカートリッジ：EG guidline
・北米のスティールカートリッジ：DOC 及び TC certified
・カーボンカートリッジ：　EG guidelines

８．６　キャリーシステム

　キャリーシステムは ABS ロゴにより確認することができます。ストラップおよびベルトは TUV によるエクストリームスポーツの要件に適合しています。全てのベアリングストラップの張力は 3000N(674lbs)です。
ABS 雪崩用エアバッグの仕組みは雪崩中に人体を安定させるためには、腰ベルト、胸部および各部ストラップを適切に締めることが重要です。ABS 雪崩用エアバッグが雪崩中に身体に留まるかどうかは、腰ベルト、胸部、および脚部ストラップが正しくに締められているかにかかっています。

９．保管とクリーニング

　使用前には毎回ガス充填されたカートリッジがしっかり取り付けられていることを確認し、Step1 に記述されている重量をチェックして下さい。もしくはカートリッジを装着したままにしておくことも可能です。
カートリッジがエアバッグに装着されていない際は、常に保護キャップがカートリッジに付いていることを確認します。使用後にはアクティベーションハンドルを取り外しして下さい。ABS エアバッグは、乾燥した、鼠などの動物がいない清潔な場所、かつ子供の手の届かない場所に保管して下さい。

エアバッグおよびバックパックは石鹸水でのみ洗って下さい。漂白剤やオキシクリーナー（米国のシミ抜き剤）のようなクリーナーで洗ってはいけません。洗濯機で洗ってはいけません。吸入管および開放バルブは水や他の液体から保護して下さい。

［注意］クリーニング後は完全に乾燥した状態であることを使用前に確認して下さい。さもなければ、部品の凍結により、意図通りに動作しないリスクがあります。

１０．移動

　一般的にエアバッグを飛行機内に持ち込むことが認められています。そのガイドラインは IATA リファレンスガイド表 2.3A の危険物に記述されています。但し、出発 14 日前までに航空便に登録する必要があります。アクティベーションユニットはそれぞれのエアバックに１つ認められています。
なお、アクティベーションハンドルは装着してはいけません。

飛行場のチケットカウンターで提示するために、ご自身で IATA のガイドラインをウェブサイトからダウンロードしておくことを強く推奨します。また、IATA ガイドラインのコピーをカートリッジやアクティベーションハンドル、バックパックの側に入れておくことをお勧めします。もしあなたが米国に旅行するのであれば、FAA ルールに適合する必要があります。

米国旅行の際は最新の www.abs-airbag.com の最新情報を確認して下さい（Service/ABS in airplanes）

エアバッグと別にカートリッジを運ぶ場合には、保護キャップを装着しなくてはいけません。

ABS の移動に関する詳細な更新情報は、www.abs-airbag.com (Service/ABS in airplanes)**で確認することができます。**